

。モシ諸仏イマタ聴許シマシマサ、ルニハ鬚髮剃除セラレス袈裟覆
 体セラレス仏戒受戒得セラレサルナリ（出家 十五4ウ5・下
 125
 14）

(577) 受用ス（2例・他ヲ） 止1（断止） 体1（ノミナリ）

（連体形の例） ノミナリ下接例

。仏祖の神通ヲ受用スルノミニアラス（陀羅 十28ウ1・中2879）

(578) 入来ス（1例・自） 体1（ナリ）

。シカアルヲ渾身跳出スルニ余外ヲモチキス頂頸上に跳出スルナリ
 鼻孔裏ニ入来スルナリ（遍参 十二15ウ6・中3627）

(579) 修理ス（2例・他ヲ） 用2（テ）

。国師道ノ汝即不問我説法ノ理道ヲ修理シテ諸仏諸聖ノ菩提ヲ料理
 スヘキナリ（無情 十5ウ7・中27211）

(580) 修練ス（1例・自） 未1（シ）

。今ワレラカ晩学ナル芙蓉高祖ノ芙蓉山ニ修練セシ行持シタヒ参学
 スヘシ（行持下 四21ウ4・中6111）

「芙蓉高祖ノ」5字は真筆本にあるが、七十五卷本系本文にはうけ
 つかれてゐない。

(581) 準的ス（2例・他） 止2（ベシ）

。過去現在未来ノ諸仏ト称ストイヘトモ凡夫ノ三世ニ準的スヘカラ
 ス（見仏 十二8ウ2・中35013）

(582) 巡堂ス（2例・自） 用1（テ） 止1（断止）

（終止形の例） 断止

。揖ヲハリテ首座ノマエヨリ巡堂ス（看経 六33オ4・上31014）

(583) 瞬目ス（1例・自） 体1（中止）

。拈花シ瞬目スルミナ翳眼空花ノ現成スル公案ナリ（空花 三26オ
 7・中16711）

(584) 巡察ス（3例・自） 止1（断止） 己2（バ）

（已然形の例） バ下接例

。住持人コノトキ延寿院ニイラス東廊ヨリ西ニオリテ山門ヲトホリ
 テ巡察スレハ山門ノ辺ノ寮ニアル人アユミツラナル（安居 十五
 18オ2・下9011）

（つづく）

注 用例の掲げ方は、前稿と同じである。すなはち、(497)は二字漢語サ変の順
 番、(16例・他ヲ)は用例数16、他動詞、格助詞ヲをとる用例がある意。
 未・用…は未然形・連用形…、()内は下接語を中心にした用法、用例
 の下の()内は、正法眼蔵略卷名、一21ウ10は、乾坤院本第一冊21丁裏
 10行、上3306は、岩波文庫本上巻330頁6行目を示す。

文字通り「世に出る」意のものと、右例のごとき、「一かどのものとして世に出る」意のものがある。

(565) 出胎ス (2例・自) 未1 (リ) 体1 (連体法)

(未然形の例) リ下接例

。シカアレハ脇尊者処胎六十年ハシメテ出胎セリ胎内ニ功夫ナカラ
ンヤ (行持上 三42ウ10・中198)

(566) 出頭ス (1例・自) 用1 (テ)

。サラニ一塵ノ出頭シテ染汚スルイマタアラサルナリ (古仏 二29
オ6・中18011)

(567) 出入ス (5例・自) 未2 (ズ1 シム1) 用1 (テ) 体2

(連体法1 ナリ1)

(連用形の例) テ下接例

。ホシキマ、ニ堂奥ニ出入シテ尊儀ヲ礼拝シ法道ヲキク愚暗ナリト
イヘトモムナシカルヘカラサル結良縁ナリ (梅花 十一14オ8・
中3296)

(568) 出没ス (1例・自) 止1 (ト)

。黑白互換ノトコロ玄沙ノ神鬼ニ出没ストイエトモ雪峰ノ声色イマ
タ黑白ノ際ニノコラス (行仏 二15オ9・上3609)

(569) 出遊ス (1例・自) 体1 (ニ接)

。アルトキ出遊スルニ僧伽難提尊者ニアフテ直ニス、ミテ難提尊者
ノ前ニイタル (古鏡 四46ウ2・上28413)

(570) 出来ス (2例・自) 止2 (断止1 ト1)

ト下接例

。ソノ宗旨ハ千聖競頭シテ出来ストイヘトモ向上一路ハ不伝ナリ
(仏向 五39ウ8・上4189)

(571) 出離ス (2例・自ヲ) 未1 (リ) 止1 (ベシ)

(未然形の例) リ下接例

。大聖ノ行履ハルカニ凡境ヲ出離セルノミナリ (古鏡 四61オ1・
上3009)

(572) 出嶺ス (1例・自) 体1 (連体法)

。アルトキアマネク諸方ヲ参徹センタメ囊ヲタツサエテ出嶺スルチ
ナミニ脚指ヲ石ニ築着シテ流血シ痛楚スルニ忽然トシテ猛省シテ
イハク是身非有痛自何来 (一願 二16ウ9・上898)

(573) 修道ス (1例・自) 用1 (キ)

。居士ツネニ法衣ヲ搭シテ修道シキ (谿声 五25ウ7・上13514)

(574) 種得ス (1例・他ヲ) 体1 (ナリ)

。オホヨソ有覚無覚ノ発心スルトキハシメテ一仏性ヲ種得スルナリ
(発善 十三11ウ10・中4036)

この意味は、「種を得る」意、すなはち、すべての原因のもとにな
るもの (||種) を得ることである。

(575) 修得ス (3例・他ヲ) 用2 (テ) 体1 (連体法)

(連体形の例) 連体法

。他心通ハ西天竺国ノ土俗トシテコレヲ修得スルトモカラマ、ニア
リ (他心 十五30オ6・下10412)

(576) 受得ス (2例・他ヲ) 未1 (ラル) 用1 (中止)

(未然形の例) ラル下接例

シムルスナハチ万古ノ榜様ナリ(身心 一33オ5・中1224)

(557) 出家ス(11例・自) 未7(ズ4 リ1 バ1 マシ1) 止2

(断止1 ベシ1) 体1(ナリ) 已1(バ)

(未然形の例) マシ下接例

。ミスヤ維摩老モシ出家セマシカハ維摩ヨリモスクレタル維摩比丘
ヲミン(分法 十二4オ5・下335)

(558) 出現ス(18例・自) 未10(ズ1 ム1 リ4 シム4) 止7

(断止4 ト1 ベシ2) 体1(ナリ)

(未然形の例) シム下接例

。風火未散トイフハ仏性ヲ出現セシムルナルヘシ(仏性 一31オ6

・上3429)

(559) 出興ス(2例・自) 未2(リ1 シム1)

リ下接例

。イマノ仏祖オホク十方ニ出興セル大瀉遠孫ニアラサルスナハチ大
瀉ノ遠孫ナリ(神通 八3ウ3・上37711)

「アラサル」の下に「ナシ」のある本文もあり(瑠璃光寺本、洞雲
寺本)この方が意味がわかりやすいが、さうすると、「スナハチ」

以下の文は重複の感がある。この「ナシ」のないのは、乾坤院本は
じめ、正法寺本、竜門寺本等の七十五卷本系諸本、徳雲寺本、玉雲
寺本、長円寺本等の梵清本系の本である。このことも考へなければ
ならぬ。

(560) 出山ス(1例・自) 未1(ズ)

。ツキニ僧ニ令シテ師ヲ請スルニ出山セス(行持上 三48オ5・中

2510)

(561) 出手ス(1例・自) 未1(シム)

。経ノ経ヲ出手セシメ経ノ経ニ正嗣スルナリ(仏経 十14ウ6・中
2578)

(562) 出生ス(4例・自1・他3) ①体1(準体言的用法单独) ②

未1(リ) 体2(ト1 ノミナリ1)

(自動詞の例)

。モシ優鉢羅華ノ時処ニアラサレハ一星火ノ出生スルナシ(空花
三24ウ4・中16513)

(他動詞の例) (連体形の例) ト下接例

。経卷ノ知識ヲ出生スルトイフハ黄蘗ノ六十拄杖ヨク児孫ヲ生長セ
シメ・乾脱黄梅ノ打三杖ヨク伝衣附法セシムルノミニアラス(仏経 十
13オ4・中25512)

この例は終止形代用である。

(563) 出城ス(1例・自) 用1(中止)

。シカアレトモ元鼎ヒコロ出城シ見知府ノタメニ在城ノトキ一夢
ヲ感スルニイハク:(嗣書 八39オ9・止2468)

(564) 出世ス(6例・自) 未4(ズ1 リ2 シム1) 用1(中止)

止1(断止)

(未然形の例) リ下接例

。ノチニ出世セリシ時衆ニシメシテイハクワレ臨濟爺爺ノトコロニ
シテ半杓ヲ得シキ末山嬢々ノトコロニシテ半杓ヲ得シキ:(礼拝
六11ウ8・上1225)

(547) 樹功ス (2例・他ヲ) 未2 (リ)

。老梅樹中ニ人間天堂ヲ樹功セリ (梅花 十一13オ7・中3281)

「功を樹つ」意で、本来、一語としては、先の「頌古ス」同様、自動詞としてしかるべきであるが、右例のごとく目的語をとる。「人間天堂」が「功」である。

(548) 受業ス (1例・自) 用1 (動詞)

。カルカユエニコノ家業ニ春秋冬夏ヲ調度トシテ受業シキタル (画餅 五23オ6・中1521)

(549) 受持ス (35例・他ヲ) 未11 (ズ2 ム4 リ4 シ1) 用8

〔中止4 動詞2 並列2〕 止10 (断止2 トモ1 ベシ7) 体6 (連体法2 ハ3 ト1)

(連用形の例) 並列

。諸仏諸祖ノ受持シ单伝スルハ古鏡ナリ (古鏡 四45オ4・上2833) 下接動詞は、キタル2、並列の他の一例はアヒ嗣法スである。キタルは補助動詞的である。右例は中止法の一つであるが、なほ、下の動詞と連続的であるので中止法とは区別した。

(550) 取舎ス (1例・他) 体1 (連体法)

。タトリウタカイ取舎スル作無作モタ、シハラク小量ノ見ナリ (一類 二20オ5・上933)

(551) 取捨ス (2例・他ト) 未1 (ム) 用1 (中止)

(未然・連用形の例) ム下接・中止法

。タレカ無住法ニオキテホトケニアラスト取捨シホトケナリト取捨セン (坐箴 三9ウ9・上4036)

(552) 誦呪ス (1例・他ヲ) 用1 (テ)

。コレヲ誦呪シテ尽大地ヲ鎮護シキタル (陀羅 十32ウ2・中29112)

これも、先の「頌古ス」「樹功ス」同様、「呪」が「誦」の目的語であり、一語としては自動詞として用ゐるのが通例であるが、ここでは目的語をとつてゐる。

(553) 修習ス (8例・他ヲ) 未2 (ズ1 ム1) 止2 (ベシ) 体4

(連体法2 ハ1 ノミナリ1)

(連体形の例) 連体法

。無仏性ハ一時ノ三昧ナリト修習スルコトモアリ (仏性 一14ウ8・上32112)

(554) 修證ス (22例・他ヲ) 未2 (ズ1 リ1) 用2 (テ1 マシ

マス1) 止2 (断止1 ベシ1) 体16 (連体法1 ハ1 モ5 ガ1 ヲ1 ナリ2 ニ接3 中止2)

(連体形の例) 中止形

。コノ量ヲ拈得シテ修證スルコレ仏々祖々ノ護念スルトコロナリ (洗面 十35ウ1・中29612)

(555) 修造ス (1例・他) 未1 (ム) 乾符

。納子投誠シテ修造センコトヲ請センシニ師翁却之イハク…… (行持上三49オ9・中2615)

(556) 出氣ス (2例・自) 未1 (シム) 止1 (断止)

(未然形の例) シム下接例

。ヒソカニ仏祖ノ鼻孔ヲカリテ出氣セシメ馬ノ脚踏ヲ拈シテ印證セ

(連用形の例) 動詞下接例

。カクノコトク修行シユクトコロニ自然ニ仏性現前ノ時節ニアフ
(仏性 一12オ8・上31812)

。無迹ニ修行シ參学シ證入スルニ六入ヲ動着セサルナリ(神通 八
11ウ6・上38514)

動詞が下接するものとしては、前の例の如きものと、後の例のやうなもの、すなはち、前者は複合動詞としてもよいもの、後者は中止法と本質的には同様のものであるが、動詞の連続的用法である。

(539) 倏見ス (1例・他) 用1 (テ)

。法高德重ノユエニ神物倏見シテ祖ニカタリテ云將欲受果何滞此耶
大道匪遠汝其南矣(行持下 四11オ10・中5010)

(540) 祝聖ス (1例・自) 体1 (ナリ)

。如此看經シテソノ御降誕ノ日ニイタルニ住持人上堂シ祝聖スルナ
リ(看經 六35ウ4・上31312)

(541) 蹴踏ス (1例・自) 体1 (連体法)

。ノチニハ海内ノ名藍トシテ龍象蹴踏スルモノナリ(行持下 四17
ウ7・中5713)

「龍象」の縁で「蹴踏」と用ゐたものである。右は、形の上で連体的用法であるが、このモノをとり除いても、意味上さほど変化なく、連体形がナリに直接するものとはほぼ等しい。さすれば、連体的用法と準体言的用法との接点にある用法といへよう。これは、モノの性格に関係がある。ちなみに、ナリに接続する連体形は準体言的用法には属するが、陳述的用法との境界にあるものであつた。

(542) 豎拳ス (1例・自) 未1 (ズ)

。一句ノ道取ナシ半句ノ道取ナシ豎拳セス拈拈セス(仏道 九38オ
9・中2258)

(543) 修己ス (1例・自) 止1 (ベシ)

。シカアレトモ染汚自己即不得ナリ修己スヘシ(虚空 十四29オ10
・下687)

(549) 守護ス (1例・他) 用1 (並列)

。コレヲ保任シコレヲ好樂シテトキト、モニ守護シ搭着シテ礼拝供
養釈迦牟尼仏シタテマツルナリ(陀羅 十33オ10・中29212)

(545) 頌古ス (1例・他ヲ) 止1 (ベシ)

。ユノ寒暑ノ形段ヲシリ寒暑ノ時節ヲ経歴シ寒暑ヲ使得シキタリテ
サラニ高祖為示ノ道ヲ頌古スヘシ(春秋 八22ウ1・中38510)

「古」がすでに「頌」の目的語である。かかる用法はよくみられるが、「高祖為示の道」||「古」であり、単に、「頌ス」といはず、その目的語を「古」としてゐるのであり、漢語と日本語との混用による効果である。見方によつては、歪んだ用法とも考へられ、又、「冗語」とされる可能性もあるが、効果の面でとらへるべきであらう。かかる用法は漢語の場合よくある。正法眼蔵に限らぬ。

(546) 趣向ス (2例・自) 止1 (ト) 体1 (ハ)

(終止形の例) 下接例

。オヨソ諸聖トモニ葛藤根源ヲ截断スル參学ニ趣向ストイエトモ葛
藤ヲモテ葛藤ヲキルヲ截断トイフト參学セス(葛藤 八23ウ2・
中1899)

- (526) 十成ス (2例・自) 止1 (断止) 体1 (連体法)
 (終止・連体形の例) 断止・連体法
 。大道十成スルトキ説法十成ス (無情 十2オ7・中2696)
- (527) 充職ス (1例・自) 用1 (テ)
 。充職シテ廨院ニアルトキ蜀僧十七人アリテ党ヲムスヒテ尋師訪道
 スルニ仰山ニノホラントシテ薄暮ニ廨院ニ宿ス (礼拝 六12ウ3
 ・上1231)
- (528) 住世ス (2例・自) 未1 (リ) 止1 (断止)
 (未然・終止形の例) リ下接・断止
 。オホヨソ礼拝ノ住世セルトキ仏法住世ス (陀羅 十31オ5・6・
 中2907) 「世にとどまる」意。
- (529) 周迴ス (1例・他ヲ) 用1 (テ)
 。普説ノ時節ハ椅子屏風ヲ周迴シテ大衆雲立セリ (諸法 九26オ1
 ・中24410)
- (530) 充足ス (1例・自) 已1 (バ)
 。法モシ身心ニ充足スレハヒトカタハタラストオホユ (現成 一4
 オ2・上858)
- (531) 十倍ス (1例・自) 未1 (リ)
 。一千年ノ、チ雲門ニ嗣法センモノハナンチ二十倍セルチカラアラ
 ン (面授 十一9オ8・中31913)
- (532) 周遍ス (1例・自) 未1 (リ)
 。コノ靈知ヒロク周遍セリ (即心 一38ウ9・上10112)
- (533) 従来ス (1例・他) 未1 (リ)
 。イフトコロノ一法通ハ一法ノ従来セル面目ヲ奪却スルニアラス
 (画餅 五19オ7・中1477)
- (534) 修学ス (1例・他ヲ) 止1 (ベシ)
 。マサニ仏経ニシタカヒ知識ニシタカヒテ正法ニ帰シ佛法ヲ修学ス
 ヘシ (発善 十三9オ10・中4005)
- (535) 祝願ス (1例・自) 止1 (ベシ)
 。楊枝ヲ右手ニトリテ祝願スヘシ (洗面 十39ウ8・中30113)
- (536) 豎起ス (2例・他ヲ) 体2 (準体言的用法单独1 ハ1)
 準体言的用法单独・ハ下接例
 。タトヘハ扨子ヲ豎起スルオホシトイヘトモ扨子ヲ豎起スルハオホ
 キニアラストイフカコトシ (見仏 十二9ウ10・10オ1・中3529
 ・10)
- (537) 授記ス (25例・自) 未3 (ズ1 シ1 ラル1) 用6 (中止
 4 動詞2) 止11 (断止10 ベシ1) 体5 (ナリ2 二接2
 中止1)
 (連体形の例) 中止形
 。アルイハ金襴衣ヲ拈シテ授記スルトモニコレ強為ニアラス (授記
 五6ウ5・中846)
- (538) 修行ス (44例・自) 未15 (ム5 バ1 ラル1 シム8) 用
 13 (中止4 テ5 動詞4) 止4 (ト1 ベシ3) 体10 (連体
 法3 ナリ1 ガ1 二接5) 已2 (バ)

。シカアルニ棄身スルトコロニ揚声止響スルコトアリ捨命スルトコロニ断腸得髓スルコトアリ(身心 一36オ2・中1267)

(515) 且問ス (2例・他) ク語法2

。且問スラクハ千尺量多少イハク如古鏡量ナリ(西来 十三4ウ10・中3885)

。「且」は「且道ス」の場合と同じく「仮りに」の意。

(516) 思惟ス (3例・自) 用1(キ) 止2(ベシ)

(連用形の例) キ下接例

。道元ヒソカニ思惟シキ(嗣書 八40オ2・上2472)

シユイとよむ。

(517) 自惟ス (2例・自) ク語法1 用1(テ)

(ク語法の例)

。自惟スラク昔人求道敲骨取髓刺血濟餓布髮掩泥投崖餉虎古尚若此我又何人(行持下 四21オ5・中519)

(518) 住位ス (3例・自) 未3(リ)

。シルヘシ諸仏化道オヨヒ説法蘊トモニ無端ニ建化シ無端ニ住位セリ(夢中 六3オ10・中13211)

(519) 聚会ス (1例・自) 体1(連体法)

。先師古仏正法眼蔵アキラカナルニヨリテコノ正法眼蔵ヲ過去現在未来ノ十方ニ聚会スル仏祖ニ正伝ス(梅花 十一18ウ9・中335)

1)

(520) 從縁ス (1例・自) 未1(ズ)

。イツレノ入者カ從縁セサラン(谿声 五28オ4・上1389)

(521) 習学ス (7例・他ヲ) 未1(リ) 止2(ベシ) 体4(連体法) 2ナリ2)

(終止形の例) ベシ下接例

。趙州イハク無コノ道ヲキ、テ習学スヘキ方路アリ(仏性 一28ウ10・上3398)

(522) 從学ス (1例・自) 体1(連体法)

。オホヨソ経卷ニ從学スルトキマコトニ経卷出来ス(自證 十四18ウ1・下443)

(523) 執侍ス (1例・自) 体1(連体法)

。南岳大慧禪師懷讓和尚ソノカミ曹谿ニ参シテ執侍スルコト十五秋ナリ(行持上 三55ウ3・中3313)

(524) 住持ス (13例・他) 未3(リ) 2ラル1) 用8(中止) 2テ

1 動詞5) 止1(断止) 体1(ナリ)

(連用形の例) 動詞下接例

。西天二十八代代住持シキタリ東地二十三世住持シキタル(仏性 一9ウ2・上3156)

下接動詞は5例いづれもキタルである。キタルは補助動詞的な用法である。乾坤院本「キタリ東地二十三世住持シ(14字)」脱。

(525) 宗称ス (3例・自) 止1(ベシ) 体2(連体法) 1ハ1)

(終止形の例) ベシ下接例

。宗称スヘクハ世尊ミツカラ称シマシマスヘシ(仏道 九44オ3・中23014)

「宗の称をする」意。

ナリ1 中止1)

(連体形の例) 中止形

。シカアルニユノ飯了徒容ノ道理ハ飯先ニモ現成ス飯中ニモ現成ス
飯後ニモ現成ス飯了ノ屋裏ニ喫飯アリト錯認スル四五升ノ参学ナ
リ (家常 十二22ウ9・中3723)

この例、さきにも処処で述べたが「錯認スル」で一旦切れ、それが、下文の主語になつてゐる。これを連体的用法と見誤ると意味不通になる。

(505) 着用ス (1例・他) 体1 (ナリ)

。受持スルトイフハ着用スル也イタツラニタ、ミモタランスルニア
ラサル也 (伝衣 七17ウ5・上20114)

ジャクヨウとよんでここにおいた。

(506) 邪計ス (4例・他ヲ) 未2 (リ) 用1 (テ) 体1 (ナリ)

(連用形の例) テ下接例

。自解ノ思量分別ヲ邪計シテ師承ナキハ西天ノ天然外道ナリ (自證
十四22オ9・下487)

ジャゲとよむ。

(507) 謝遣ス (1例・他) 用1 (動詞)

。龍樹未廻心ノサキ外道ノ法ニアリシトキノ弟子オホカリシカトモ
ミナ謝遣シキタレリ (仏性 一20ウ5・上32813)

「謝して去らせる」意である。

(508) 叉手ス (6例・自) 用6 (テ)

。拝ノアヒタ知客ハ拜席ノキタニヲモテヲ南ニシテスコシキ施主ニ

ムカイト叉手シテタツ (看経 六33オ1・上31011)

「手を叉す」の意で、「叉手ス」一語としては自動詞である。

(509) 捨衆ス (1例・自) 用1 (テ)

。黄蘗ノムカシハ捨衆シテ大安精舎ノ勞侶ニ混迹シテ殿堂ヲ掃灑ス
ル行持アリ (行持上 三57オ10・中3513)

「衆を捨す」意で、一語としては自動詞である。

(510) 邪執ス (2例・他) 未1 (リ) 体1 (連体法)

(未然形の例) リ下接例

。知不知ニ性不性ナルヘキト邪執セルハ外道ナリ (仏性 一31ウ9
・上34810)

(511) 遮障ス (1例・他) 未1 (ズ)

。阿誰カ遮障セサレトモシラセサルナリ (行持上 三46ウ10・中24
4)

(512) 且道ス (3例・他) ク語法2 止1 (ベシ)

(ク語法の例)

。且道スラクハ瞿曇眼睛ハタ、一二三ノミアラスイマ打失スルハ
イツレノ眼睛ナリトカセン (眼睛 十二20オ1・中3688)

「且道」は「かりにいふ」意。「且道スラクハ」は「まあいつてみ
れば」ほどの意。

(513) 写勝ス (1例・自) 用1 (テ)

。スヘカラク念誦已前ニ写勝シテ首座ニ呈ス (安居 十五14ウ6・
下8615)

(514) 捨命ス (1例・自) 体1 (連体法)

正法眼蔵のサ変動詞

——その用例七（漢字二字シヤレシユン）——

田 島 毓 堂

今回は紙数制限嚴重につき、中途半端であるが、漢字二字のサ変

動詞のうち、シヤレシユンの分を掲載する。^(注)

(497) 蹉過ス (16例・他ヲ) 未4 (ズ1 リ1 シム2) 用1 (テ)

止4 (断止1 ト1 ベシ2) 体7 (連体法1 ガ1 ナリ3

結1 ト1)

(連体形の例) 結び

。イクハクノ経師論師等カ仏祖ノ道ヲ蹉過スル (仏性 一21ウ9・

上3306)

「あやまつてふみはず」「見すごす」の意。

(498) 錯会ス (2例・他ト) 未1 (リ) 体1 (連体法)

(未然形の例) リ下接例

。シカアルヲ又夢作国王等ノ前後ノ道著ヲ見聞スル古今オモハクハ
説是第一法ノチカラニヨリテ夜夢ノカクノコトクナルト錯会セリ

(夢中 六7オ7・中13610)

(499) 錯解ス (1例・他) 止1 (断止)

。一念ヲ経歴スルニナホイマタ解脱ノ期ヲ期セスイタツラニ錯解ス

(行仏 二2ウ3・上34512)

(500) 錯挙ス (1例・他) 未1 (ズ)

。コノユエニ什麼経ノ問著現成セリ人ニアフテハ錯挙セスコノユヘ

ニ維摩経ナリ (看経六31ウ8・上3096)

(501) 錯失ス (1例・他ヲ) 未1 (シム)

。タトヘハ多福一叢竹ヲ道取スルニ一茎両茎曲ナリ三茎四茎斜ナル

モ万有ヲ錯失セシムル行履ナリトモナニトシテカイマタイハサル

千曲万曲ナリト (海印 三22ウ6・中777)

(502) 着手ス (2例・他ヲ) 未2 (ズ1 リ1)

ズ下接例

。手ノ枕ヲサクル、イマタ制限ヲ着手セス (観音 四40ウ10・中941)

(503) 錯対ス (2例・他ヲ) 未1 (リ) 体1 (連体法)

(未然形の例) リ下接例

。シカアレトモ老人モイマタイハス錯対学人ト、百丈モイマタイハ
ス錯対セリケルト (大修 十四15ウ5・下636)

(504) 錯認ス (4例・他ヲ・ト) 未1 (リ) 体3 (準体言的用法单独1